

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象学年

- ・小学校第6学年、中学校第3学年

3 調査の内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数・数学）
- (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
 - ①児童生徒に対する調査
 - ②学校に対する調査

3 調査実施日

令和6年4月18日（木）

白老町教育委員会

令和6年11月

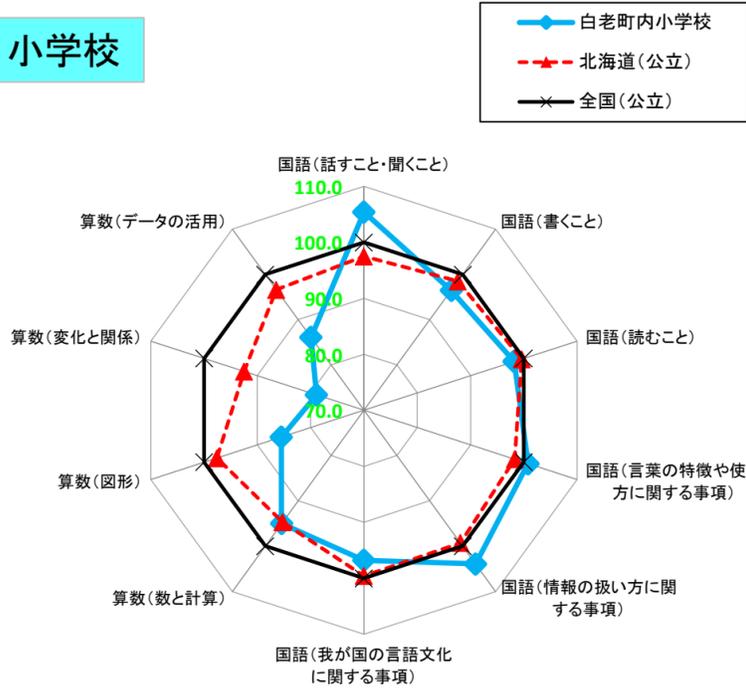
■白老町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:72人）（中学校数:2校、生徒数:86人）

【教科全体の状況】

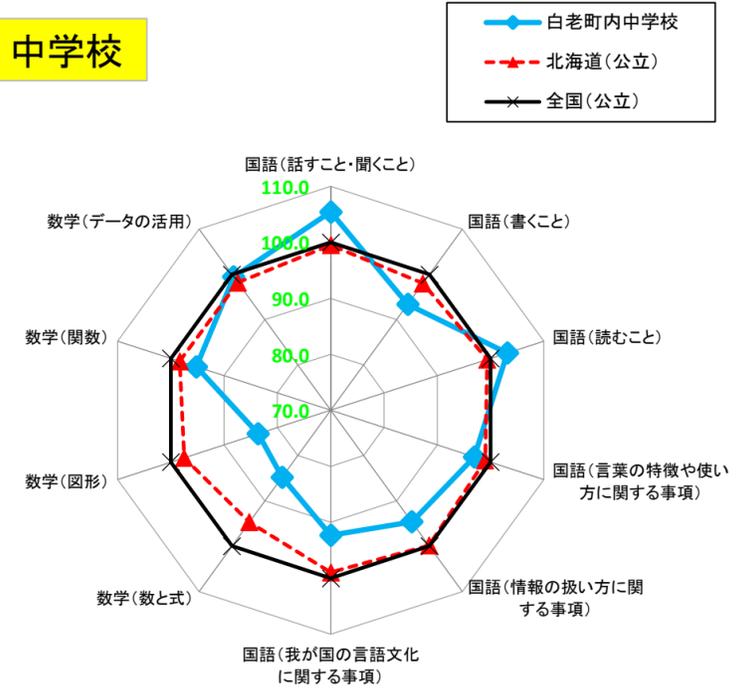
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	68	57
算数・数学	56	48

小学校

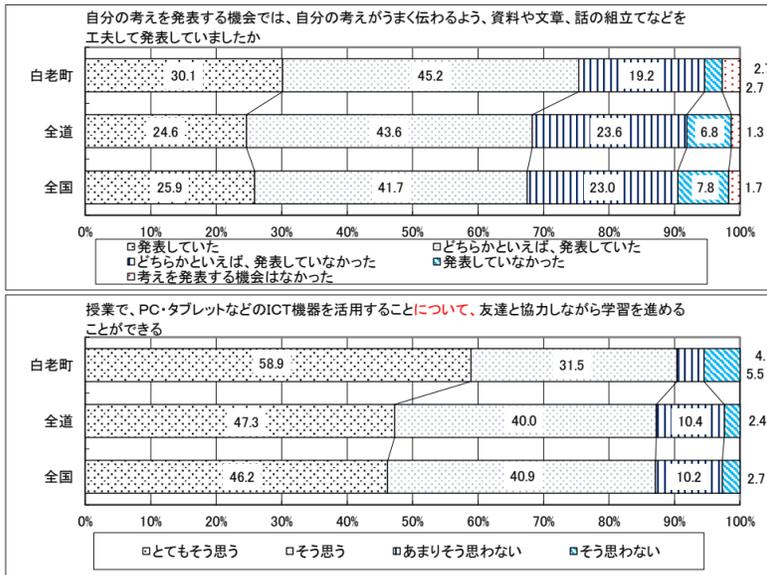


中学校

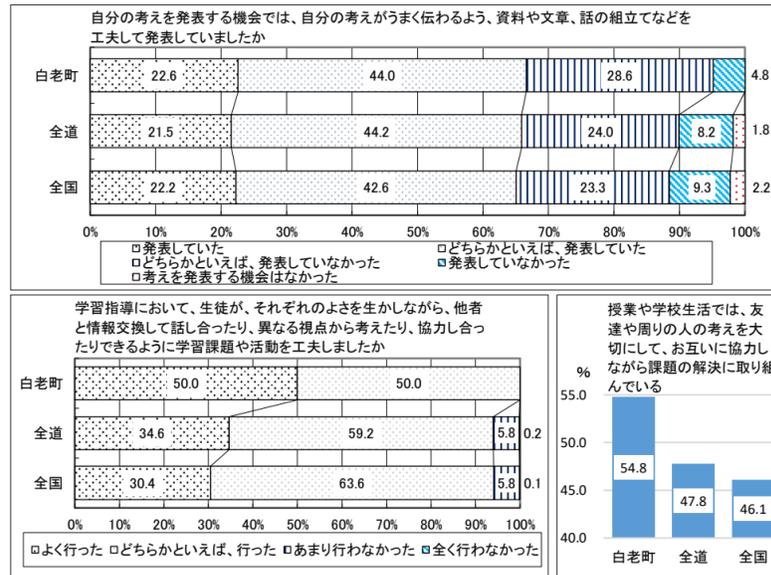


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

「白老町スタンダード(白老の底力)」を策定するなど、町全体で児童が主体的に関わる学習活動の定着を推進したことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の平均正答率が全国と同じであり、特に「話すこと・聞くこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に
関する事項」「情報の扱いに関する事項」で全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体でICT機器の効果的な活用を推進したことにより、授業で、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

「白老町スタンダード(白老の底力)」を策定するなど、町全体で生徒が主体的に関わる学習活動の定着を推進したことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【白老町の学力向上策】

- ◎ 「白老町スタンダード(白老の底力)」を基軸にした確かな学力の定着を図る取組の推進
- ◎ 小規模校における遠隔授業の実施及びICT端末を活用した取組の推進
- ◎ 義務教育9年間の切れ目のない学びの実現による小中一貫教育の充実及び小中連携教育の推進